

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名

アダージョ

	チェック項目	評価			課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	工夫している点	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	室内スポーツやゲームに留めている。	運動は公園で行っている。
	2 職員の配置数は適切である	7	0	今までがマンツーマンだったため。	今後も低学年が主になるので、マンツーマンは極力維持します。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	車いすで入れます。	段差がなく外には手すりもついています。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	ICTツールを使って、共有実践しています。	全員が毎日、プロジェクトや児童PDCAを回していけるようにを目標にします。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	絶えず行っています。	どうしても現実的に難しいことは、他の手段や方法を使って補っています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	ホームページに公開しています。	今年度から、入り口2箇所の掲示板に貼ります。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7	行なっていません。	求められるハードルと経費面が高いのですが、来年度以降は利用できるように努めます。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	社内外研修や資格取得を推進しています。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	振り返り・面談・モニタリング・原案作り・担当者会議と行い作成している。	今後はもっと詳細に原因と結果、現実と要望、道標と工程が明確に分かるようにアセスメントや計画作成を実践していきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	標準的なツールを使っています。	もっと多くのアセスメントツールを体験していきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	毎週、全員で取り組んでいます。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	毎週、全員で取り組んでいます。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	毎週、全員で取り組んでいます。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	しっかり取り組んでいます。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	行なっています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	0	7	時間がなく翌日に行っています。	今後は、時間的な問題を解決できたので、来年度からは当日に行います。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	毎日、正しく記録し検証改善につなげています。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	2	最低でも6か月単位で行っています。	今後は、毎月のPDCAサイクルに合わせて、1か月から3か月で見直しの判断をできるようにします。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	2	新人にも研修と実践を早目に取り組みます。		
関係機関や保護	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0		
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	0		
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当なし	

者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	7	現状では接点がない	センターや専門機関と相談して、環境整備を行いたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	7	現状では接点がない	今後は相互乗り入れを提案していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5	不十分だと感じます。	今後は、自治体や地域団体から情報収集を行い、積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	毎回、しっかりとお話をし、共通理解を得ています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	0	毎月、イベントとして行っています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	しっかりと行っています。	今後は運営規定を一部お渡ししていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	毎回、話しの中で投げかけています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	毎月、イベントとして行っています。	今後は、親子会や親子療育もいろいろなテーマや切り口で行っていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	7	会報はできていませんが、案内パンフ等で発信しています。	ホームページの一新とタイムリーな情報発信をしています。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	十分に注意しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	保護者に合わせて分かりやすく行っています。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	出来ていないことではなく一部出ています。	講演会やイベント等は行っているので、もっと多くの手段方法で幅広く知ってもらえるように、事業内容や社会活動について発信していきます。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	保護者への周知はできていません。	順次開示していくようになります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	保護者への周知はできていません。	順次開示していくようになります。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	年2回、研修と訓練を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	計画に盛り込み行なっています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	通所開始時にしっかりと情報を共有して、全体で周知管理しています。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	共有して研修に役立っています。	もっと多くのアセスメントツールを体験していきたい。多くの事例集を集めて学んでいきます。	